



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑應答. 地球 1929, 11(5): 396-396

ISSUE DATE:

1929-05-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183592>

RIGHT:

同	上	兵庫縣三原郡湊及長田
アンモナイト		高知縣高岡郡佐川町
礫	岩	和歌山縣高野附近ノ和泉砂岩中ノモノ
同	上	千葉縣銚子大吠岬附近
(五) 第三紀層		
凝灰	岩	神奈川縣足柄下郡湯本村附近
同	上	東京府小笠原島母島
同	上	千葉縣安房郡上小原
同	上	兵庫縣城崎郡港村氣精附近
砂	岩	富山縣射水郡澁谷
礫	岩	磐城炭田ノ礫岩(堅クテ保存ニ都合ヨシ)
頁岩	本縣産	
貨幣石	炭岩	東京府小笠原島母島
其ノ他本縣産各種		

## 質疑應答

【問】 スミルナ産の櫛鱗(ヴァロネ) (大阪 I 生)

【答】 ヴァロネは亞細亞トルコを中心にして生長する櫛の一種から採取せらるゝ圓栗の蒂である。此櫛は主にアナトリアのメアンドル河流域からマルモラ海の沿岸、北はタルダネルスから南はスミルナの南海岸地方の森林にできる。實は胡桃様のドングリと松子様の蒂から成り、熟すると蒂が破れて中の

胡桃は自然に落ちる。商品として有用なのはこの蒂である。この蒂の先端につく所の片鱗はよく脱落するが、この部分は實は單寧の含有量が豊富である。

タンニン鞣の原料として、ヴァロネが珍重さるゝ理由は、其含有量が他の櫛皮果實の何よりも多いことゝ良質であつて上等の皮、特に小兒靴、上等手袋の羊皮のナメシに適するからである。甘く所理すると皮革が軟柔ピロッドのやうになるのである。

スミルナ附近は特にこの木に適し單寧分が平均三十七%に達する。他の地方のは三十%位である。スミルナが輸出中心地となる理由がこゝに存する。

收穫は例年八月に初り十月頃に終る、外部の餘り熟しきらぬ中にたゞき落し、水に一旦沒した上で、天日乾燥を行ひ、袋につめて保存し必要に應じて輸出する、歐洲大戦前に毎年五萬五千噸乃至六萬噸位を出した。その後人民が燃料に木をきつたので減じたが、希臘軍侵入當時は一萬八千噸位になつた、大戦中輸出の途が杜絶したので、北米では化學合成品を以て代用したが、近年漸く復活して年額四、五萬噸になつた、凶作の年ほど輸出がふえる。近頃大阪方面に百五十噸ばかり輸入された。

ヴァロネから抽出した黄色の粉末をヴァレックスといふ。單寧が六十四%になる、スミルナにはその製造所が三ヶ所もあつて、最大の工場では年々一萬二、三千噸の良質ヴァロネから五六千噸のヴァレックスをつくるといふ。(藤田)